

Link

駒澤大學

Vol.12

May 2022

[特集] Special Feature

FUSION



[巻頭座談会] Round-Table Talk

テクノロジーと伝統の融合

学 長 各務 洋子

副学長 吉田 尚史

学長補佐 坂野井 和代

Special Interview

富士フイルムメディカル株式会社 坂本 真俊

Special Cross Talk

文学部地理学科 田中靖ゼミナール

CONTENTS

4 **[特集]** Special Feature**FUSION**
【融合】

[巻頭座談会] Round-Table Talk

テクノロジーと伝統の融合学 長 **各務 洋子**副学長 **吉田 尚史**学長補佐 **坂野井 和代**

Special Interview

富士フイルムメディカル株式会社

坂本 真俊

Special Cross Talk

文学部地理学科**田中靖ゼミナール**14 **[研究を極める]**

仏教学部 准教授

徳野 崇行

僧侶であり、歴史息づく永平寺で修行をした経験を研究に活かして多彩な視点から仏教民俗学を紐解く。

16 **[名誉教授に聞く]**

名誉教授

酒井 清治

「人類の過去を探る」考古学に魅せられ続け発掘への情熱は尽きなかった。

18 **駒澤大学の就職力**

求人企業は12,624社、就職決定率95.38%

19 **駒大NEWS**

2021-2022

スポーツ、文化、地域社会で、駒澤大学が活躍しているニュースを一堂に！

22 **駒澤大学高等学校NEWS****駒澤大学附属苫小牧高等学校NEWS**

表紙イラスト:大久保ナオ登

制作・発行 駒澤大学 総務部 広報課

※写真撮影時のみマスクを外しています

特集
Special Feature**FUSION**
【融合】

いま、変化が激しい時代に

大切なのは“自他協創”。

多様な繋がり、深い洞察力、本質も見極め、

そして、人と人との思いを繋ぐ。

これらの「融合」が、

まさに社会変化を乗り越える鍵。

駒澤大学もいま、

様々な「融合」に挑んでいる。

先人から培った

未来への思いを繋ぐために――。

未来を見つめ、 駒澤大学と学生の価値が 世界で高まっていくために、 今、進めるべきこととは。

Member

KAGAMI YOKO

学長／
グローバル・メディア・スタディーズ学部教授
各務 洋子

専門は経営戦略論・グローバル経営論。学校法人駒澤大学長期ビジョン「駒澤2030」の達成を目指し、「デジタルと伝統の融合で新しい駒澤大学の創造」を掲げて「デジタル化によるマネジメント改革とダイバーシティ」を推進。そのリーダーを担う。

YOSHIDA NAOFUMI

教育・研究担当副学長／
グローバル・メディア・スタディーズ学部教授
吉田 尚史

専門は情報学・データベース・データ工学。学内のデジタルを使ったマネジメントを構築するキーパーソン。駒澤大学に一番ふさわしい情報システムの選定やシステムの使い方を周知させるなど、デジタルマネジメントの実務を担当。

SAKANOI KAZUYO

デジタル改革教育担当学長補佐／
総合情報センター所長／
総合教育研究部自然科学部門教授
坂野井 和代

専門は地球物理学。教養科目ではプログラミング等を教える。教養教育のICT系を担当。デジタルを使った授業形態やカリキュラム、「デジタル化は楽しいと感じてもらえる」マニュアル作成など、使う側に近いところの実務を担う。



(左から 坂野井 和代、各務 洋子、吉田 尚史)

座談会◎テクノロジーと伝統の融合

TRADITION

Round-Table Talk | 学長 各務 洋子 × 副学長 吉田 尚史 × 学長補佐 坂野井 和代

現在、各務学長の下で「デジタル化」と「ダイバーシティ」が推進されている。これにより学生の未来、可能性はどう拡大されていくのか。駒澤大学430年の伝統はどう融合され、その価値を高めていくのだろうか。デジタル化の中核を担う3人に語っていただいた。

自信を持って世界で活躍できる
人材育成に必要な「デジタル化」

各務 洋子学長(以下、各務) 私たちは「デジタル化とダイバーシティの推進」に注力していますが、今回はそれがどのように活かされるのか、具体的に考えてみたいと思います。

吉田 尚史副学長(以下、吉田) 私は教育・研究担当副学長を担い、「デジタル化とダイバーシティの推進」においては、デジタル化の全体のマネジメント役を務めています。

坂野井 和代学長補佐(以下、坂野井) 私は教養教育でICT系担当の教員です。この施策では学長補佐として「デジタルの特性を活かすために、どういうカリキュラムを組み、授業を行うか」などを考えたり、細かいところを調整して運用に繋ぐ実務面を担当しています。

各務 私たちがなぜ「デジタル化」を推進しているのかというと、今の学生にも、未来の学生に対しても「卒業後に社会で、そして世界で、活躍できる力を身に付けてもらうため」です。世界共通のデジタルという道具を使いこなすことで、場所と時間を問わずに働くことも可能になります。

技術が進化しても、最終的には「人」に行き着く。だからホスピタリティとデジタルスキルの融合を。

(副学長 吉田尚史)



較的容易に実現できるわけです。

吉田 そのために直近で必要なのは学内のシステムの構築なんですよ。

坂野井 まさに今、私たちが行っている施策ですね。

各務 昨年、私は「デジタルと伝統の融合で新しい駒澤大学を創ろう」というキャッチコピーを作りました。430年の歴史と伝統は、本学の持つ卓越したオリジナリティの一つです。外から日本を眺めると、禪をはじめとする歴史と伝統を学びたいという需要はとても大きいと感じます。本学の持つコンテンツをデジタル化することで、少しでも多くの方々に本学の魅力をお伝えできればと思っています。

充実したコミュニケーションの環境をオンラインでも築いていく

各務 新型コロナウイルス感染症の影響で世界的にデジタル化が必要とされ、本学でも推進に拍子がかかりましたね。

吉田 先生方も急ぎよ、模索しながらオンライン授業に切り替えて学習の継続に尽力してくれました。

失敗は学生の特権、何事も失敗から学ぶもの。デジタルの活用で安心して失敗できる環境を整えたい。

(学長補佐 坂野井和代)

各務 日本各地の様々な現場で働く実務家や、時には海外の大学で学ぶ学生さんにゲストで参加していただくなど、オンライン授業の可能性の広がりを感じました。

坂野井 一方、リアルなコミュニケーションが薄くなるという、オンラインのデメリットも見えてきました。

各務 そうなんです。人生の選択肢が広がります。海外の大学へ行かなくても、希望する授業を受けられますからね。参加してみると、オンラインだけでなく、やはりこの目で見てみたいという気持ちを抑えられなくなり、実際に留学する学生も増えてきました。

吉田 はい。リアルとオンラインの両方の授業を行うには、雑談がしやすいツールの活用も必要だと思います。大学では友達を作ることや社会生活を学ぶことも大切ですから、オンラインでも先生と学生同士のコミュニケーションがしやすいデジタル化を目指していきたいです。

坂野井 デジタルを使うことは、ITの世界に入り込むことと捉えられがちですが、そうではなく、ITを利用する



デジタルスキルも身に付けて社会で活躍してほしいです。

各務 学生の皆さんには駒澤大学430年の歴史と伝統をアイデンティティとし、現代の読み書きそろばんであるデジタルスキルを使いこなし、地球市民の一人として世界に向けて貢献できる人材であってほしいと願っています。「think globally, act locally」といいますが、本学で学ぶ学生さん一人ひとりが、地元地域を含めた目の前の社会課題をグローバルな視点で解決しようとする主体的に一歩動くことから始めてほしいと思います。それができる仕組みを私たちは今、作っています。本学のホームページには、「学校法人駒澤大学長期ビジョン『駒澤2030』」として、自他協創という造語を掲げています。「繋がりを大切に、共に社会変化を乗り越えるために、自己研鑽し続ける人材の育成」を目指しています。皆さんと共に、デジタルと伝統の融合で新しい駒澤大学を創っていきましょう。

学生の未来を支える“生きる力”を身に付けてもらう
だからこそ、未来に通用する環境作りが重要。

吉田 ただ、私は授業でよく学生に「一般の利用者に成り下がってはいけない」と話しています。スマートフォンを使って情報を取得する人には誰でもすぐなれる人間がみんなできる。でも、仕組みや原理、プログラミングなどがある程度理解して活用すること、単に情報取得しかできないことは、全然違うのです。

ホスピタリティや人間性を養い、未来を生きるスキルを磨き、世界へ

坂野井 それは今後、より重要になるデジタルのセキュリティを身に付けること、つまり自分を守ることに繋がっていきますね。

各務 セキュリティに関する教育も非常に大切になってくると思います。

吉田 いくら認証や暗号を高度化しても破れないものではなく、最終的には「人」ということになります。ですからルール作りが重要で、そのための人間教育が必要なのです。

坂野井 学生には自分のパソコンを持つよう推奨しています。貸与されたものは、自分のものではないので、セキュリティ

ティの意識や簡単なトラブルを直せるスキルが身に付かないからです。セキュリティやトラブル対応もそうですが、何事も失敗しながら学び身に付けていくものなので、それを恐れずにやってみよう。失敗ができるのは学生の特権ですよ。デジタルツールはうまく使えば失敗のリカバリーが簡単にできます。その特性を利用して、学生たちが安心して失敗でき、新しいことにトライできる環境を準備したいと思っています。

各務 そう。そういう意識改革を含めた「デジタル化」ですよ。セキュリティや簡単なトラブルに対応できるスキルはこれから絶対に必要な、生きる力、だと思えます。未来に向かって生きる力を育成するのが駒澤大学です。

吉田 先ほどの「セキュリティも最終的には『人』という話にも関わります。『人』という話にしても『人』としてどう思うか」、人間性が重要ですよ。よく外部の方から「駒澤大学の学生はホスピタリティにあふれていますね」と言われますが、それは非常に優れた特長なので、そうした人間性を大切にしながら、



社会に出て、駒澤大学のデジタル環境が “時代の半歩先を行っている”と実感。 デジタル化推進で次代を牽引する人材育成を。

学生時代に様々なデバイスやOSに触れておいてほしい。それは応用力や思考力に繋がる

いま感じていることは、「間もなくデータが資産になる」ということです。近い将来、マイナンバーカードと医療データが紐づくかもしれません。そういう状況変化を見ながら「デジタルデータはお金以上の価値を生むものになりつつある」と考えるようになりました。ですから、今後ますますデジタルデータやビッグデータに関する学びが重要になっていくでしょう。

学生の皆さんには「スマートフォンだけ」ではなく、いくつものデバイスやパソコンひとつひとつでもWindowsや



Special Interview

SAKAMOTO MASATOSHI

坂本 真俊

富士フイルムメディカル株式会社
営業本部 MS事業部
事業推進部 販売支援グループ
2007年 医療健康科学部 診療放射線技術科学科 卒業

Macなど様々なOSに触れておいてほしいですね。一つのデバイスやOSだけでなく、色々なやり方を知っていることが知識として蓄積され、社会で役立つと思うからです。学生時代は使うツールを自分で選べますが、社会に出ると業界や会社によって決められたものを使うことになります。そしてツールが変更されたり、モデルチェンジが行われたりすることもあります。その変化に対応するには大学で多くのデバイスやOSに触れ、応用力を高めておくことが効果的です。また、色々なシステムや操作法を知ることが思考の幅を広げることも繋がると思います。

今の学生はオンライン・ネイティブ、次世代のコミュニケーションのあり方を示してほしい

社会に出てから一番大きな「デジタル化」を感じたのは、実は新型コロナウィルス感染症によるビジネス環境の変化でした。医療関係者にセミナーを行うことも多いのですが、オンライン形式に移行するなど、仕事のありようが大きく変わったからです。「こんな機能や使い方があったら？」と、新たなデジタルの活用方法を発見して社内でも共有したり、デジタルの幅広さを知る機会



Profile

坂本 真俊

2007年 駒澤大学医療健康科学部診療放射線技術科学科卒業。同年、富士フイルムメディカル株式会社入社。在学時は画像技術科学コースを専攻、近藤啓介准教授のゼミに所属。仕事のやりがいは「診療放射線技術師資格を有しているので、技師の方々と同じ目線で話ができ「理解してくれてありがとう」など感謝の言葉をいただけること」。

大学で学んだ画像処理技術がそのまま仕事で使えて驚いた

富士フイルムメディカル株式会社は医療情報ネットワークシステムや医療用診断システムなどの日本国内への販売と技術サービスを行っている会社です。その中で私は「X線画像診断システム」の営業支援と技術サポートを専門とし、「ヘルスケアITソリューション」に携わり、AIや最先端技術を活用した医療現場の課題解決サポートも行っています。具体的には、医師の指示がオンラインでX線検査や薬局などの関連部署に届く「オーダーリングシステム」のフォローをしています。このシステムによって医療現場で紙が不要になり、パソコン上で指示や確認が可能になります。

私が入社した頃はちょうど、X線検査がフィルムからデジタルデータに変わるタイミングでした。驚いたのは、大学で習得した画像処理技術がそのまま仕事で活かされたことです。学生時代は、その技術が現場でどのように役立つのかピンとこないまま学んでいましたが、社会に出てから「駒澤大学のデジタル環境・学習は時代の半歩先を行っていたんだ」と実感しました。

今にもなりました。

今の学生はオンラインでの講義も当たり前の世代です。私は彼らを、オンライン・ネイティブだと思っていて、近い将来、デジタル化による新しいコミュニケーションのあり方を築いてくれる人たちだと確信しています。このような学生の皆さんが社会に出て、私たちが先に社会へ出た者へデジタルの新しい使い方を教えてくれると嬉しいですね。そういう先進的な人材を育成する環境という意味で、駒澤大学のデジタル化推進に大きな期待を寄せています。

Special Cross Talk

TANAKA YASUSHI SEMINAR

文学部地理学科 田中靖ゼミナール

田中靖教授が専門としている自然地理学の研究では現在、GIS*やAI、デジタルデータ、ドローンなど、最新テクノロジーがなくてはならないものとなっている。田中ゼミではこのような最先端技術を用いて、ゼミ生全員で地形データの取得・分析を行い、各自の研究テーマに活かしている。デジタルの活用は地理の世界をどのように変えているのか。田中ゼミの活動に迫ってみた。

*位置に関する様々な情報を持ったデータを、電子的な地図上で扱う情報システム技術。

ゼミ生の意思で学びを進めて
成長のために多くの失敗を認める

「ドローンを飛ばせるので田中ゼミを選びました」という学生がいくつと、新しいテクノロジーを駆使して研究を行い、面白さに満ちているのが田中ゼミだ。田中教授は「このゼミの研究対象は主に地形です。地形データをどのように取得し、解析するかを学びます。さらに、その地形に付随した人の暮らしについても考察します」と話し、ゼミの特長について「何か新しいことが入っていないと僕自身が面白く感じないこともあって指導というより学生に質問されたら答えるという雰囲気です。指導したことも学生が自分の意思で



Profile

田中 靖

1973年生まれ。1997年 駒澤大学文学部地理学科卒業。1999年 東京都立大学大学院理学研究科地理学専攻修士課程、2004年 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻博士課程修了。博士(理学)。2002年より駒澤大学で教鞭を執る。カリフォルニア大学バークレー校客員研究員などを経て、2012年 駒澤大学文学部地理学科地域環境研究専攻 教授。専門科目では「リモートセンシング」「測量学」などを担当。日本地理学会、日本地形学連合、地理情報システム学会、日本地球惑星科学連合、東京地学協会などで委員を務める。

やってみて、いっぱい間違っただけで遠回りした方が身に付くと思うし、才能ある人材が育つと思っています」と語った。

田中ゼミを選んだ理由について、ゼミ生の真板吾宇さんは「ドローンを使った研究をしたかったので、それなら田中ゼミだと思いました。また、ゼミを明るく雰囲気にしてくださる先生で、それも魅力でした」と話す。同じくゼミ生の秋山一真さんは「1年次に田中先生の授業を受け

て、先生の視座に刺激を受けました。しかも話しやすい先生なんです」と話し、田中ゼミの様子が伝わってきた。

喜界島のドローンを使った測量は
未来の資産となるゼミの業績

田中ゼミではドローンによる写真測量などからデータを取り、3Dモデル画像やAI画像解析といった最先端技術を活用して研究を行っている。田中教授は「あまり知られていませんが、今とても期待されている、自動運転技術の鍵になるのは、実は、地理の基礎であるデジタル地図と位置情報のデータ取得・解析です。地理学がなければスマートフォンは実現しません。未来の自動車や街づくりに直結する学問なのです」と将来を見据える。

2020年からは2年にわたり、鹿児島県・喜界島の精密な測量をドローンを使って実施した。喜界島は年間2ミリ隆起するといわれている島で、国内でも特殊な場所だが、隆起に伴う海岸付近の地形の違いを細かく解析しようとする、一つの要素の大きさが数センチメートルという通常より鮮明な空間解像度のデータが必要だった。しかし、そのようなデータはこれまで存在しなかった。「自分たちでデータを取ろう」と決め

最新テクノロジーを駆使すれば
大学のゼミでも、まだ存在しない
デジタルデータを蓄積して
未来に役立てることができる。



卒業論文 GRADUATION THESIS

青森県津軽平野中南部における地形分類と水害危険度



2022年卒
風間 健太郎 さん

自然災害による被害を減らしたいと思い、大好きな地理を通して自然災害について研究。

GISを使って作成した水害ハザードマップの元となる画像。地表面をデジタル技術を使って見直すことで危険な地域など新たな発見が可能となった。青森県庁に就職。

自動運転やスマートシティの鍵が“地理”にある。
実は、未来の街づくりに直結する研究なのだ。

たわけだ。「今後どのように変化していくのかが注目されている場所で解析に耐え得るデータを取れたことには大きな意味があります」と田中教授は力を込める。今後、地震などによって地形が変化した場合に、比較できるデータを取っておくことは、未来への資産に繋がる成果といえる。

測量の体験や自分の興味関心、最先端デジタル技術の学びを活かし2022年卒業生はそれぞれ卒業論文を完成させた。青森県弘前市出身の風間健太郎さんは「今と昔の津軽平野の地形を比べ、水害が起こりやすい地点を割り出し、人口分布がどう変わってきたかを考察しました。さらに『危険な地域』を予測する研究も行いました」と話す。今のデジタル技術を使うと、縮尺が決まっている昔の地図と現在の測量データを見比べることも可能だ。そして風間さんはGIS技術も使って地表面を細かく分析することで、今までわからなかった危険地点などを見つけて卒業論文に反映した。田中教授は「以前からあった地図を最新技術で見直すことで、新しいもの

対象とした。「地球の周囲をぐるぐる回っている地球観測衛星から送られる画像で尾瀬ヶ原を見比べ、湿原のエリアが少し小さくなっていたり、植物が増えたりという地表環境の変化を数値化しました」と言う。この比較研究にもGISや専門的なソフトの知識が必要だ。田中教授は「例えば、尾瀬ヶ原の見え方を数字にして時系列で並べると変化がわかります。これを定量的解析と言いますが、解析のためにどんな指標が必要で、どういう図ができるのかがわかる丁寧な研究でした」と振り返った。

積極的に最先端デジタル技術を取り入れながらゼミ生を指導している田中教授は、「地理の分野でも、将来ますますAIが活用されていくと考えられています。例えば、AIを使って地形をより細かく分類したり、自然災害などで危険な地域をこれまでとは異なる手法や考え方で抽出したりできるようなものではないでしょうか。今後、研究者はAIの結果を専門的な視点から紐解いていくスキルがさらに求められると思いますし、僕もそ

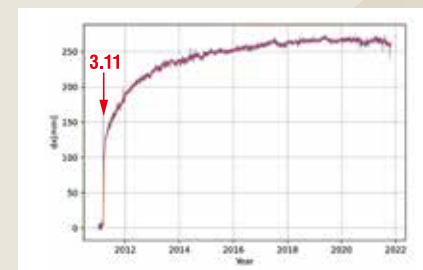
2021年度 3年次 セミナープロジェクト SEMINAR PROJECT

房総半島の地形と地殻変動・地震に関する研究



4年
秋山 一真 さん

“気象”への興味がハンパない。田中教授の助言で、気象の解析に必要なプログラミング言語や数値計算を習得中。



房総半島の2011年以降の地殻変動の様子をグラフ化した。Python(パイソン)などのプログラミング言語の学習でもある。



4年
真板 吾宇 さん

「ドローンを飛ばすなら俺に任せろ!」。最近では、地元の千葉県・房総半島鹿野山周辺の地形に興味を感じている。



一般に入手できる地図のデータよりもさらに細かな標高などのデータを、ドローンを使った測量から得て、コンピュータ内で3Dモデルを構築した。

が見えてきた」と展望した。

沖縄県の水質と地形・地質の関係を専門的に研究している今井あやめさんは、水質の化学的な分析に加え、ドローンを飛ばしてデータを取り、研究を行った。そしてGISの水文解析のツールを使い「湧水特性」をテーマに卒業論文を作成した。湧水を集める集水域のデータを正確に収集するには数値計算が必要だ。以前は「ここはこのぐらい」という大まかな数値しか出せなかったが、今はGISで「この地質では何パーセント」などと、水質を決める素因を様々な角度から検討することができるようになった。「GISを用いて、今までできなかった細密な分析をした卒業論文です」と田中教授は評価した。

そして、棚橋廉さんは福島県・群馬県・新潟県にまたがる尾瀬ヶ原を研究のういう姿勢で研究を進めているところだ」と語る。

そして、学生に向けて「これからはどの学部・学科や学問分野でも、好き嫌いに問わず様々なデジタルデータを扱った学びや研究が増えることははっきりしています。デジタルデータを使いこなして仕事や研究をより良い業績・結果に繋げていける人材は絶対に必要とされます。一方で、AIはそれぞれの専門分野の知識と合わせてはじめて役に立つものであることも忘れてはなりません。だから各々の専門知と、データサイエンスの基礎を駒澤大学でしっかりと身に付けてほしい。それができる環境がここにはあるのだから」とメッセージを送ってくれた。



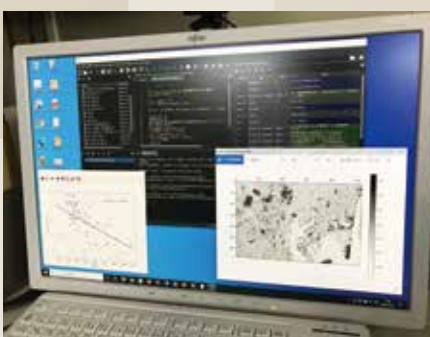
卒業論文 GRADUATION THESIS

衛星データによる尾瀬ヶ原とその周辺の地表環境の観測



2022年卒
棚橋 廉 さん

地理好きに加え、駒澤大学で衛星画像解析に興味を持つ。卒業後は東京都立大学大学院で卒業論文のテーマについてさらに研究を深めていく。



定量的解析のために必要な「指標」を、地理の専門知識とあわせて地図化する。「新しい地図」「自分だけの地図」が描ける研究。

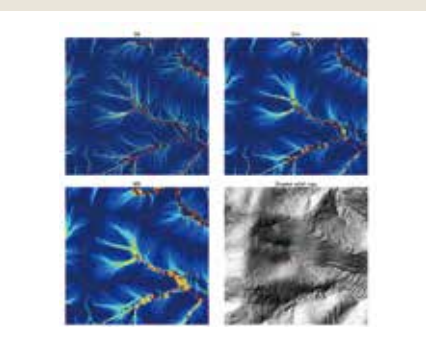
卒業論文 GRADUATION THESIS

沖縄の地形地質データから考察した湧水の水質特性



2022年卒
今井 あやめ さん

高校時代「プラタモリ」を観て地理に開眼。ゼミで学んだGISに魅了されスキルを磨く。ESRIジャパン株式会社(GISソフト企業)に就職。



GISを使用することで流域内の水の動きを推定することができる。水文解析の計算方法の違いが結果に与える影響について検討している画像。



STORY

関心は宗教学へ

私は寺院の次男として生まれ、小学5年の時に「兄弟のどちらがお寺を継ぐか」という家族会議があり、兄が開く「継がない」と言ったので「じゃあ僕が継ぐよ」と言いつつ、後継者として駒澤大学への入学を目指すことを決めました。とはいえ、当時はまだ小学生だったので「お寺がなくなると故郷がなくなるのは寂しいな」という感覚だったように振り返ります。

専門としている宗教学に興味を持ち、たきつかけは、駒澤大学の学部生時代に前学長の長谷部八朗先生（現・名誉教授）の授業を受けたことです。仏教の思想や歴史のものだけでなく、広く宗教を学問として扱う「宗教学」に惹かれ、長谷部ゼミに所属して専門的に学ぶようになりました。

宗教学の魅力は、様々な調査手法での研究が可能で、そのフィールドバックとして宗教を肌で感じられるところだと思います。例えば、社会学や心理学などでは、その学問の研究手法が決まっていますが、宗教学では実に多用であるため、社会的アプローチをしたり、心理学の手法を用いて研究してもいいわけです。

STORY

供養文化への広がり

博士論文のテーマは「日本仏教の追善供養」で、その頃から「供養文化」を様々な角度で研究しています。その基点は大学院で、供養の問題を研究されていた池上良正先生（現・名誉教授）のもとで学んだことです。先生と研究を共にする中で「供養」に関心が移っていった経緯があります。

さらに、永平寺での体験が「供養」への関心を高めてくれました。それまで私は本山を「修行の場」としか見ていませんでしたが、永平寺でも曹洞宗の檀信徒が集まって大きな法堂で供養を行います。その実情を目の当たりにして「供養の歴史を紐解いてみたい」と思ったのです。

自分の宗教学者としての強みは僧侶であり、大本山永平寺に安居した経験があることだと考えています。僧侶でないとならないような仏教的な文献を読むことができ、また、本山の僧侶の姿や、中世・近世の供養をイメージできるので、それを頭に浮かべながら理解することができると感じています。

そして「供養」というテーマの中で「供養儀礼」や「先祖供養」、「仏壇」などについて研究し、2015年に論文「近世

僧侶であり、歴史息づく永平寺で修行をした経験を研究に活かして多彩な視点から仏教民俗学を紐解く。

フィールドが広く、独自の視点が必要となる宗教学の中で、徳野准教授の研究テーマはどのように変遷してきたのか。宗教学の魅力について話してくれた。



TOKUNO
TAKAYUKI

准教授
仏教学部

Profile

宮城県松島町出身。生家は寺院で小学生の時に得度。2011年 駒澤大学大学院人文科学研究科修了。博士(仏教)。2007年から1年間、曹洞宗大本山永平寺に安居。2012年から駒澤大学仏教学部で教鞭を執り、2019年より准教授。科目では「宗教学概論」「仏教と人間」「仏教民俗学」などを担当。日本宗教学会、「宗教と社会」学会 所属。

徳野 崇行



スマートフォンで調べるだけでは、その場の雰囲気や匂いがわからない。肌で感じる、実体験を大切に。

版本に描かれた仏壇と位牌―山東京伝の合巻を手がかりにして―を発表しました。その後、仏教や宗教文化の領域の中で「一般の人々にとって身近なテーマを研究したい」と考え、「食」の研究を始めました。「食」を通して、禅の文化的

側面へ研究領域を広げたいという思いもありました。2018年には近世の文献から特に「精進料理」を調査してまとめた論文「近世料理書から見た仏教と食―「青物」の料理から「精進料理」へ―」を発表しています。

STORY

民俗学的視点を得て

また宗教学では、歴史学や民俗学等の間に「先祖供養」や「仏壇」という視点から紐解いてみたら?」などの問題提起ができます。宗教学には学問のすき間を繋ぐ役割もあるため、新たな視点を見つけることが宗教学の大事なところで面白さでもあります。

長谷部ゼミの研究テーマは当時「仮面芸能」でしたから、卒業論文は能面の歴史について書きました。私は現在、宗教学の中でも「宗教民俗学」や「仏教民俗学」という領域を専門にしていますが、ゼミでの民俗学的な学びがベイスンになっていると感じます。

大学卒業後は大学院の修士課程に進み、博士課程に3年在籍後、曹洞宗大本山永平寺に1年間安居（修行）しました。その後、復学して博士の学位を取得しました。大学院へ進学したのは「仏教学部を卒業し、修行に行き、お寺を継ぐ」という流れから少し外れてみたかった気持ちもあったのかもしれません。



大本山永平寺での修行時代

STORY

東京の地縁を探究

ここ数年は、新しい葬儀の形にも興味を持ち、弔いのトレンドについても調べています。これから研究してみたいと思っているのは、東京の地縁が今に生きる地域的な宗教文化と、それに紐づく江戸時代の人々の生活文化です。世田谷区駒沢もそうですが、都内には江戸時代の宗教儀礼が残る地域がたくさんあるので、東京の地縁という視点から調査してみたいですね。

私は現場へ行くことを重視していますが、徳野ゼミでも月1回フィールドワークを行い、宗教を肌で感じる、ことを大事にして、横浜中華街にある道教の宗教施設や浅草の鷲神社、日本最大のイスラム教のモスク・東京ジャーミイなどへ足を運びます。単なる情報はスマートフォンでも調べられるかもしれませんが、空気感や匂いはその場に行かなければ絶対に感じるできないからです。

学生の皆さんには常に問題意識を強く持ち、何かを読んだり知った時、それを客観的な視点から「なぜ自分はそう感じたのか」と問い、その問いを連鎖させて考え、より自分を高めていってほしいと思います。



ゼミ生とフィールドワーク

A+P

archeology association

「人類の過去を探る」
考古学に魅せられ続け
発掘への情熱は尽きなかった。

「考古学が趣味」と語る酒井清治名誉教授は
駒澤大学で遺跡発掘の基礎力を磨いたことに
誇りを持ち、遺物を「観る」ことを大切に
いくつもの新説を発表し、考古学に貢献してきた。



あまたの遺跡発掘・研究を繋ぎ
考古学の当たり前をくつがえして

酒井清治名誉教授は、日本の古墳時代から平安時代にかけて盛んに作られた陶質土器「須恵器」と「瓦」、古代寺院、渡来人を専門に遺跡発掘調査・研究を行い、多くの功績を挙げ日本の考古学に貢献した。業績の中でも特筆すべきは、須恵器を倭国に伝えた渡来人が朝鮮半島南部の「馬韓」地域からも来ていたと1990年頃に発表し、それが認められて現在の定説となったことである。それ以前は朝鮮半島中南部の伽耶地域からのみ須恵器が伝わったとされていた。「それまでずっと学んできたこと、発掘してきた様々なことが一つ実を結んだかなと感じました」と酒井名誉教授は語る。

研究の基礎を築き、方向性を決めた
駒澤大学と倉田教授との出会い

美濃焼で有名な岐阜県中津川出身の酒井名誉教授は、幼少期から陶磁器や骨董品に興味を持っていた。「中学時代は陶工になりたくて美大受験のために絵画の勉強をしていました」。転機は高校時代、小学生の頃から参加していた中津川考古学研究会の繋がりで、名古屋大学が実施する発掘現場へ行く機会を得た時だ。「その時に考古学への興味を再び頭をもたげて『古墳時代の須恵器という焼きものをもっと知りたい』と進路を決めたのです」。そして、駒澤大学の倉田芳郎先生が須恵器窯の発掘調査を行っていることを知り、駒澤大学文学部歴史学科を志望した。

研究対象が瓦へ、渡来人へと広がり
数多くの業績が認められてきた

駒澤大学大学院の修士課程を修了した後、千葉県や埼玉県で発掘調査を行い、窯跡や出土須恵器から当時の関東豪族たちの須恵器生産の導入や流通、大和王権との関わりなどを研究した。そして埼玉県で「古代の瓦から古代寺院を探る」という調査を任せられた。「瓦の文様から時代や系譜、仏教信仰の広がりがまで研究の幅が広がりました」。さらに千葉県での発掘調査をきっかけに「渡来人」も研究対象になっていった。酒井名誉教授は「朝鮮半島百濟で作られた土器を見つけましたが、それは朝鮮半島からきた渡来人が暮らしていたことを意味するのです」と語る。このように酒井名誉教授が研究してきた「須恵器」、「瓦」、「渡来人」が繋がり、関連づけられながら「考古学の新たな定説」を生み出してきたのである。

「駒澤大学はもう一人の恩師」と語る酒井名誉教授は、「学生には、何事においても特徴や違いを正確に『観る』目を養ってほしい。駒澤大学はそれを身に付けられる場所ですから」と話してくれた。



遺跡や遺物により人類の過去を研究するために
対象物を正確に「観る」。それが何より重要だ。



Emeritus Professor

SAKAI KIYOJI

酒井 清治 名誉教授

Profile

1949年 岐阜県生まれ。小・中学生の時、伯父が主宰する中津川考古研究会に参加。駒澤大学文学部歴史学科に入学。故 倉田芳郎先生に師事。学生時代に群馬県の菅ノ沢窯跡など40余箇所もの遺跡発掘調査を行う。駒澤大学大学院人文科学研究科修士課程修了。1980年 埼玉県埋蔵文化財調査事業団にて発掘調査。1985年 埼玉県立歴史資料館、その後、国立歴史民俗博物館に移り研究・資料業務を担う。1997年 駒澤大学文学部歴史学科助教授に就任。1999年 駒澤大学から博士(日本史学)授与。2003年 駒澤大学文学部歴史学科教授。その間に韓国忠南大学校百濟研究所で在外研究。著書に『古代関東の須恵器と瓦』、『土器から見た古墳時代の日韓交流』(共に同成社)などがある。

骨董品に興味を持っていた。「中学時代は陶工になりたくて美大受験のために絵画の勉強をしていました」。転機は高校時代、小学生の頃から参加していた中津川考古学研究会の繋がりで、名古屋大学が実施する発掘現場へ行く機会を得た時だ。「その時に考古学への興味を再び頭をもたげて『古墳時代の須恵器という焼きものをもっと知りたい』と進路を決めたのです」。そして、駒澤大学の倉田芳郎先生が須恵器窯の発掘調査を行っていることを知り、駒澤大学文学部歴史学科を志望した。

入学後は倉田先生に師事し、群馬県の菅ノ沢窯跡で資料を見ながら発掘を行い、それが須恵器研究へと方向性を決定づけた。「考古学は遺跡や遺物により人類の過去を研究する学問」と教えてくれた倉田先生との忘れられないエピソードがある。「1年生のころに発掘した石積みのある。1年生のころに発掘した石積みのある。一生懸命描いて倉田先生に見せた時のことです。私は自分なりにしっかりと描いたつもりだったのですが、先生に『この図で本当にいいのかわかんないか?』と思うなら破れ』と言われてしまいました。その夜、図面を破って、もう一度しっかりと観察して描き直しました。すると、中世の人たちが石を積み重ねた形跡まできちんと描くことができたのです」。そ

駒大NEWS

2021-2022

スポーツ、文化、地域社会で、駒澤大学が活躍しているニュースを一堂に!



第98回 箱根駅伝

©KGGR / Getsuriku



第53回 全日本大学駅伝対校選手権大会

©陸上競技マガジン



第33回 出雲全日本大学選抜駅伝競走

©陸上競技マガジン

陸上競技部

「第98回箱根駅伝」で第3位

2022年1月2日(日)・3日(月)に東京・大手町～神奈川・芦ノ湖(10区間217.1km)で行われた「第98回東京箱根間往復大学駅伝競走」で、10時間54分57秒のタイムで第3位となりました。

1区は唐澤拓海選手(市場戦略2)の好走でスタートし、2区田澤廉選手(経済3)へ2位で襷が渡ります。田澤選手が期待を裏切らない区間賞の走りでもトップに立つも、続く3区・4区は苦しいレース展開に。しかし5区金子伊吹選手(歴史2)の快走により往路3位でフィニッシュしました。迎えた復路は唯一の4年生、個康平選手(法律4)の意地の走りでも2位に浮上。その後一時6位まで下がった順位を9区山野力選手(市場戦略3)が懸命な走りでも4位に押し上げます。最終10区を任せられた青柿響選手(歴史2)がゴール直前まで繰り広げられた壮絶な3位争いを制し、総合第3位となりました。

「第53回全日本大学駅伝対校選手権大会」で優勝

2021年11月7日(日)に愛知・熱田神宮～三重・伊勢神宮(8区間106.8km)で開催された「秩父宮賜杯 第53回全日本大学駅伝対校選手権大会」において、5時間12分58秒のタイムで2大会連続14回目の優勝を果たしました。

1区はルーキー佐藤条二選手(経済1)が1年生ながら落ち着いた走りで見事なスタートを決め、区間新記録での区間賞を獲得。続く2区・3区は厳しい戦いを強いられるも粘りの走りでもつぎます。4区の赤星雄斗選手(法律2)が区間4位の好走で一時的11位と沈んだ順位を9位まで押し上げ、出雲駅伝でも好走した6区の安原太陽選手(地理2)による区間2位の快走で一気に4位まで浮上します。そのまま勢いに乗った7区は田澤廉選手(経済3)が区間賞の走りでもエースとしての強さを見せ首位に立つと、トップで襷を受けた8区の花尾恭輔選手(商2)は、10km近く青山学院大学と並走を続けるも一度も前を譲らず1位でフィニッシュし、2連覇を達成しました。

「第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走」で第5位

2021年10月10日(日)に島根・出雲大社～出雲ドーム(6区間45.1km)で開催された「第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走」において、2時間14分53秒のタイムで第5位となりました。1区はルーキー篠原倅太朗選手(地理1)が任せられ、2区は安原太陽選手(地理2)が区間3位、3区花尾恭輔選手(商2)が区間4位と堅実に繋がります。その後はなかなか先頭との差を埋めきれない展開の中、8位で襷をもらったアンカーの田澤廉選手(経済3)が、日本人トップ・区間2位の快走で3人抜きを達成し、5位でフィニッシュしました。

田澤廉選手が「第293回日本体育大学長距離競技会」男子10000mで日本歴代2位の記録を樹立

2021年12月4日(土)に神奈川県横浜市で開催された「第293回日本体育大学長距離競技会」の男子10000mで、田澤廉選手(経済3)が27分23秒44のタイムで日本歴代2位、日本人学生歴代1位の記録を樹立しました。田澤選手はこの記録により、2022年7月にアメリカで開催される「オレゴン2022 世界陸上競技選手権大会」の参加標準記録(27分28秒00)を突破しました。



山野力選手が「第50回全日本実業団ハーフマラソン大会」で日本人学生歴代1位の記録を樹立

2022年2月13日(日)に山口県・維新みらいふスタジアムで開催された「第50回全日本実業団ハーフマラソン大会」で、山野力選手(市場戦略3)が1時間00分40秒のタイムで大会第4位、日本人学生歴代1位の記録を樹立しました。これは本学陸上競技部OBの村山謙太選手(2015年経済卒)が、2014年の在学時に記録した日本人学生記録を10秒更新する好成績です。

※学年は大会当時のもの

駒澤大学の就職力

就職決定率 **95.38%**

直近5年、就職希望者の95%以上が就職している。

求人倍率 **3.72倍**

全国の大卒求人倍率の1.50倍を大幅に上回る求人倍率だ。(2021年度卒業生対象)※出典リクルートワークス研究所

求人企業 **12,624社**

東京を中心に、全国各地の多様な業種の企業から学生一人当たり3.72社と多数の求人がある。

2021年度は12,624社から求人があった。就職決定率は95.38%。業界研究や各種資格試験、文章・面接対策講座など300にものぼる就職支援講座や希望者全員を対象にしたオンライン面談など、一人ひとりの学生に向けたきめ細かなサポートが駒澤大学の就職力を支えている。

主な就職先

■ 仏教学部

履修科

- 旭化成ホームズ株式会社
- 北海道旅客鉄道株式会社(JR北海道)
- 株式会社千葉銀行
- 第一生命保険株式会社
- パーソルキャリア株式会社
- 湖西市役所
- 警視庁
- 神奈川県警察本部

仏教学科

- アサヒ飲料株式会社
- 株式会社ヤマダホールディングス
- 日本郵便株式会社
- 日本KFCホールディングス株式会社
- 株式会社メンバーズ
- 城北信用金庫
- 防衛省自衛隊
- 川崎市役所
- 長野県警察本部
- 千葉県中学校

■ 文学部

国文学科

- 株式会社トモク
- AGC若狭化学株式会社
- 近畿日本鉄道株式会社
- 株式会社システナ
- 株式会社トップカルチャー
- 住友生命保険相互会社
- 株式会社エフエム
- 弁護士法人アディーレ法律事務所
- 株式会社東京個別指導学院
- 福島県庁
- 川口市役所
- 警視庁
- 東京都教育委員会
- 神奈川県教育委員会
- 埼玉県教育委員会
- 横浜市教育委員会

英米文学科

- 東海旅客鉄道株式会社(JR東海)
- 株式会社大塚商会
- 株式会社千葉銀行
- 楽天銀行株式会社
- あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
- 株式会社NTTドコモ
- 株式会社旅工房
- 株式会社星野リゾート
- 東京国税局
- 防衛省 航空自衛隊
- 埼玉県庁
- 千葉県教育委員会

地理学科

- 株式会社小野測器
- 日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)
- 日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)
- アジャ航洋株式会社
- 国際航業株式会社
- 朝日航洋株式会社
- キャロウェイゴルフ株式会社
- ESRIジャパン株式会社
- 株式会社紀ノ屋
- 中央アルプス観光株式会社

■ 内外地図株式会社

- 神奈川県公立小中学校
- 羽田空港サービス株式会社
- 防衛省 航空自衛隊
- 青森県庁
- 港区役所
- 川崎市役所
- 横浜役所
- 越谷役所
- 川崎市消防局

歴史学科

- いなば食品株式会社
- 株式会社サイネックス
- 株式会社さぎょうせい
- 日本航空電子工業株式会社
- 日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)
- 山九株式会社
- 株式会社寺岡精工
- 日本瓦斯株式会社(ニチガス)
- 株式会社オリエントコーポレーション
- 内外地図株式会社
- 株式会社星野リゾート・マネジメント
- ウチダエスコ株式会社
- セコム株式会社
- 株式会社MAXISエデュケーション
- 株式会社臨海
- 西多摩農業協同組合(JAIにしたま)
- 厚生労働省
- 東京国税局
- 横浜地方検察局
- 陸上自衛隊幹部候補生学校
- 品川区役所
- 川崎市役所
- 秋田市役所
- 山梨県警察本部
- 神奈川県教育委員会
- 埼玉県教育委員会
- 福島県教育委員会
- 船橋市教育委員会
- 福岡市教育委員会

社会学科

- フランスベッド株式会社
- 大日本塗料株式会社
- 株式会社大塚商会
- 株式会社東急ストア
- いなば食品株式会社
- ミアヘルサ株式会社
- 株式会社栃木銀行
- 株式会社星野リゾート・マネジメント
- 株式会社ミリアルリゾートホテルズ
- 上尾中央医療グループ
- SOMPOケア株式会社
- 全国酪農協同組合連合会
- 株式会社トカイ
- 株式会社ソラスト
- 社会保険診療報酬支払基金
- 日本年金機構
- 埼玉県庁
- 横浜市役所
- 市原市役所

法学部

- 株式会社ケア21
- 社会福祉法人中心会
- 厚木市役所

■ 経済学部

経済学科

- 積水ハウス株式会社
- アイリスオーヤマ株式会社
- 株式会社キングジム
- 株式会社東京スポーツ新聞社
- 株式会社マキタ
- 富士通株式会社
- 東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)
- 日本通運株式会社
- 株式会社大塚商会
- 株式会社セブンイレブン・ジャパン
- 株式会社みずほフィナンシャルグループ
- 三井住友海上あいおい生命保険株式会社
- 株式会社クレディセゾン
- 株式会社東京商工リサーチ
- 株式会社博報堂プロダクツ
- 日本郵便株式会社
- 千葉県庁
- 世田谷区役所
- 神奈川県警察本部

商学科

- 株式会社一業工務店
- 味の素冷凍食品株式会社
- JFEスチール株式会社
- 株式会社LIXIL
- 株式会社村田製作所
- 三益半導体工業株式会社
- 日本電気株式会社(NEC)
- 富士通株式会社
- リコー・ジャパン株式会社
- イオンリテール株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 国土交通省
- 成田市役所
- 北海道警察本部
- 東京消防庁
- 宮崎県教育委員会

現代応用経済学科

- 鹿島道路株式会社
- 住友林業株式会社
- いなば食品株式会社
- 株式会社不二越
- 三菱自動車工業株式会社
- 三菱食品株式会社
- 株式会社横浜銀行
- 大和証券株式会社
- AIG損害保険株式会社
- KDDI株式会社
- JCOM株式会社
- 世田谷区役所
- 文京区役所
- 相模原市役所
- さいたま市役所

法学部

- 株式会社一業工務店
- 住友不動産販売株式会社
- アイリスオーヤマ株式会社
- 株式会社スポーツニッポン新聞社

■ エステー株式会社

- デンヨー株式会社
- 日本電気株式会社(NEC)
- 東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)
- 日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)
- JFE商事鉄鋼建材株式会社
- 株式会社大塚商会
- イオンリテール株式会社
- 株式会社ゆうちょ銀行
- りそなグループ
- 株式会社かんぽ生命保険
- 楽天カード株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 高崎市農業協同組合(JAたかき)
- 税理士法人YMG会計
- 弁護士法人司法法律事務所
- 日本年金機構
- 学校法人昭和大学
- 東京労働局
- 東京国税局
- 法務省出入国在留管理庁東京出入国在留管理
- 法務省矯正局東京矯正管区
- さいたま地方検察庁
- 防衛省 航空自衛隊
- 防衛省 陸上自衛隊
- 静岡県庁
- 港区役所
- 杉並区役所
- 川崎市役所
- 神奈川県警察本部
- 千葉県警察本部
- 埼玉県警察本部
- 東京消防庁
- 川崎市消防局
- 埼玉県教育委員会

市場戦略学科

- 伊藤ハム株式会社
- クニナップ株式会社
- 東芝エレベータ株式会社
- 三和倉庫株式会社
- 株式会社日本アークス
- コニカミノルタジャパン株式会社
- イオンリテール株式会社
- 株式会社ローソン
- 日本マクドナルド株式会社
- 株式会社ニトリ
- 株式会社カインズ
- 野村證券株式会社
- 日本生命保険相互会社
- ソニー損害保険株式会社
- キャンノンITソリューションズ株式会社
- 株式会社星野リゾート・マネジメント
- 株式会社ニチイ学館
- 君津市役所
- 神奈川県警察本部

■ 医療健康科学部

診療放射線技術科学科

- 住友林業株式会社
- 伊藤忠飼料株式会社
- 独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)
- 独立行政法人労働者健康安全機構 関東労務病院
- 医療法人徳洲会 千葉徳洲会病院
- 東京都病院
- 中央労働金庫
- TDCソフト株式会社
- 日本郵便株式会社
- 株式会社船井総合研究所
- 日本赤十字社
- 日本年金機構
- 社会保険診療報酬支払基金
- 総務省行政評価局
- 厚生労働省
- 防衛省 陸上自衛隊
- 千葉県庁
- 栃木県庁
- 渋谷区役所
- 横浜市役所
- 警視庁
- 神奈川県警察本部
- 埼玉県警察本部
- 埼玉県教育委員会
- 大阪府教育委員会

グローバル・メディア・スタディーズ学部

- 山崎製パン株式会社
- アイリスオーヤマ株式会社
- 株式会社パナソニック
- 富士通株式会社
- 東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)
- 日本通運株式会社
- スターバックス コーヒー ジャパン株式会社
- 日本生命保険相互会社
- 株式会社オリエントコーポレーション
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
- 三井情報株式会社
- キャンノンITソリューションズ株式会社
- 株式会社東京商工リサーチ
- 株式会社博報堂プロダクツ
- 株式会社星野リゾート
- トランスコスモス株式会社
- 株式会社パナソニック
- 東京国税局
- 警視庁
- 東京都教育委員会

経営学部

- 三井住建道路株式会社
- 株式会社フルボン
- アイリスオーヤマ株式会社
- エステー株式会社

(2022.3.31現在)

第1回学長フォーラム「池上彰氏 講演会 in 駒澤大学〜コロナの時代に学ぶ君たちへ〜」を開催
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行により国内外問わず到来したニューノーマル時代を担う学生に向けたエールとして、ジャーナリストの池上彰氏より「いま、この時代に学ぶ意義とは何か」を語っていただきました。講演後、質疑応答の時間も設けられました。



「第18回ホームカミングデー」を開催

この催しは、同窓生の皆さまに様々なイベントを通して、母校との絆を一層深めていただくことを目的として、年に1度開催しています。



禅ブランディング事業の一環としてZenFes「駒大エール駅伝」を開催

この企画は、本学の建学の理念である「仏教の教えと禅の精神」に触れることや、慈悲や利他の心を持ってコロナ禍で頑張っている人にエールを送ることを目的としたオンライン開催の学生イベントです。有志の学生スタッフが、エール作品の募集やトークセッションの生配信、精進料理や体育会に関する動画配信など、楽しく学び、エールを送る企画を立案し、実施しました。



「2021年度留学フェア」をオンラインで開催

留学フェアとは、学生に具体的な留学のイメージを持ってもらうことを目的とした企画で、留学制度の説明や、留学に役立つ情報の提供を行うものです。説明会の実施のほか、留学相談室スタッフや留学を経験した学生と直接話することができる「個別相談」や、留学経験学生の留学準備・対策といった体験談を伝える「パネルディスカッション」、「英語勉強法セミナー」等が開かれました。



その他の本学のニュースは大学ホームページからご覧いただけます。



硬式テニス部の清水里咲選手(国文4)と谷井涼香選手(英米文3)が「2021年度関東学生テニス選手権大会」女子ダブルスで優勝、「2021年度全日本学生室内テニス選手権大会」女子ダブルスで準優勝



オーストラリアンフットボール部「マグパイズ」が「2021 A.LEAGUE FINALS SERIES」で初優勝
グランドファイナル(決勝)に初出場し、チーム史上初の優勝を果たしました。また、羽鳥陽祐選手(GM3)と三田拓希選手(経営3)が、日本オーストラリアンフットボール協会より表彰されました。



大学の取り組み

食料品・生理用品支援プロジェクトを実施
コロナ禍の影響を受けている学生などを主な対象として、食料品・生理用品支援(無料配付)を行いました。学内外から本プロジェクトに対していただいた寄付金を原資とし、ご賛同くださる企業・団体から無償や特別価格での商品提供をいただきました。



新型コロナワクチン職域接種(大学拠点接種)実施

1か月半におよぶ接種期間に、学生・生徒、教職員、キャンパスで働く方々、地域住民の方々等、約5000人(うち、地域住民等の方は約1000人)が2回のワクチンを接種いたしました。



サッカー部が「第70回全日本大学サッカー選手権大会」(インターカレッジ)で優勝
NACK5スタジアム大宮で行われた阪南大学(大阪府)との決勝戦を3-2で制し、14大会ぶり7度目の優勝を果たしました。



プロ野球ドラフト会議で硬式野球部の鶴飼航丞選手(商4)が中日ドラゴンズから2位指名



辻本始温さん(GM2)がモータースポーツ大会「KYOJO CUP」でシリーズチャンピオンを獲得
この大会は女性プロレーサーのみが出場し、年間4回のレースでシリーズチャンピオンが決定する大会です。辻本さんは昨年もお出場のこの大会で初のタイトルを獲得し、本大会の結果から文部科学大臣賞を受賞しました。



ボクシング部が「令和3年関東大学ボクシングトーナメント戦」1部で初優勝

最優秀選手賞に平塚駿之介選手(経済1)、技能賞に荒竹一真選手(経営1)、敢闘賞に藤田時輝選手(経済2)が選ばれました。



経済学部の見深泰孝ゼミが「2021年度証券ゼミナール大会」で表彰

論文、プレゼン、大会当日の討論を総合的に評価し、優秀賞が決定する大会で、見深ゼミは、第1テーマ「日本におけるベンチャーファイナンスのあり方」のEブロックで優秀賞、第3テーマ「国内証券市場の活性化〜証券取引所のあり方〜」のDブロックで敢闘賞を受賞しました。見深ゼミの優秀賞受賞は昨年に続き3年連続となりました。



経済学部の吉田健太郎ゼミが産学連携プロジェクトの一環で「そらマルシェ」に参加

「ラ・マゾン」を運営する株式会社ビー・エス・コープとの産学連携プロジェクトの一環としてタルト2種を開発しました。タルトは株式会社ビー・エス・コープが契約農場から直接仕入れた農薬不使用の旬の野菜や果物を販売するイベント「そらマルシェ」で販売しました。



課外活動

東京2020大会で本学OBが活躍

東京2020大会でボクシング部OBの田中亮明選手(2016年商卒)がボクシング男子フライ級(48-52kg)で銅メダルを獲得、陸上競技部OBの中村匠吾選手(2015年経済卒)が男子マラソン競技日本代表として出場しました。田中選手と中村選手は本学に表敬訪問し、大会結果を報告しました。



佐藤昌憲・藤田幸男・中島祐二郎研究室の榎本裕美さん(医療健康科学研究科修士2)が「第9回韓国医学物理学会学術合同大会」で表彰
榎本さんはポスター発表で、「Best Poster Award」を受賞しました。



文学部の松信ひろみゼミが渋谷区男女平等・ダイバーシティセンター(アイリス)で報告会を実施
松信ゼミは、2020年度に渋谷区が区民、在勤・在学者、中学生及び区職員を対象として実施した「男女平等及び多様性社会に関する意識調査」の比較分析を委託されました。報告会ではこれらの4つのデータを分析し、大きな差がみられる部分について、グラフ資料等を作成して報告しました。



経済学部会計プロフェッショナルクラスの山本龍輝さん(経済3)と山本楓さん(商3)が公認会計士試験に3年生で現役合格



経済学部の長山宗広ゼミが世田谷区馬事公苑コミュニティデザインプロジェクトにブース出展



グローバル・メディア・スタディーズ学部の各務洋子ゼミが「第61回インナー大会プレゼンテーション部門本選」で第3位

この大会は、関東地区の経済・経営・商業系の分野を専攻する学生が対象となる関東最大規模の学術大会です。各務ゼミ「耳守り隊」チームは、「『耳守りプロジェクト』〜難聴リスクから、人々の“聞こえ”を守るために〜」というテーマで発表し、審査員賞を受賞しました。また、大会結果が大学・教育関連専門「大学ジャーナル」に掲載されました。



ゼミ・研究

小熊航平さん(医療健康科学研究科修士2)と武田正勝さん(医療健康科学研究科修士2)が「第121回日本医学物理学会学術大会」で表彰
放射線医学、放射線技術学、医学物理学分野の各学会が合同で開催する国内最大の学会で、学術的に優れた将来性豊かな学術研究発表に対して各賞が選考されるなか、馬込大貴研究室の小熊さんが大会長賞Bronzeと学生奨励賞、佐藤昌憲・藤田幸男・中島祐二郎研究室の武田さんが学生奨励賞を受賞しました。



医療健康科学部の新井知大講師が新型コロナウイルス感染症陽性患者を初期診断するエックス線診療車の開発に携わりました



経営学部の小野瀬拓ゼミが世田谷区による「ひとり親世帯家賃低廉化補助事業」の制度告知のためのポスター作成に協力

なかなか理解されづらい行政の支援制度を多くの人に親しみやすく広く知らせるために、世田谷区都市整備政策部と小野瀬ゼミが協力してプロジェクトを実施しました。学生によって制作された49のデザインの中から、酒井優衣さん(経営3)の作品が採用され、世田谷区役所本庁舎第1庁舎4階の居住支援課窓口に掲示されました。



経営学部の鹿嶋秀晃ゼミの学生が日本経済新聞社主催「第21回全国学生対抗円ダービー」で総合第5位

この大会は、6・7月末の東京外国為替市場の円・ドル相場を予想し、2回の予想を通じて相場との差の小ささを競う大会です。全国から380チームが挑戦するなか、鹿嶋ゼミの「鈴木崇史チーム」が総合第5位に入賞しました。また、この結果は2021年8月28日(土)付の日本経済新聞電子版に掲載されました。



駒澤大学附属苫小牧高等学校 NEWS

アイスホッケー部がインターハイで3年ぶり32度目の優勝

2022年1月17日(月)～21日(土)に青森県で行われた「第71回全国高等学校アイスホッケー選手権大会(インターハイ)」にアイスホッケー部が出場し、決勝で武修館高等学校(北海道釧路市)を5-2で破り、3年ぶり32度目の優勝を飾りました。アイスホッケー部は、今から50年前の1972年に初の全国優勝を果たしており、32度の優勝は全国最多になります。今後も「駒大健児」が駒澤大学第一応援歌にも歌われている「勝利の王座 ゆるぎなく 栄冠永久に我にあり」を貫き、さらなる飛躍をしていくことが期待されます。



全国最多優勝記録を更新した駒大苫小牧高校アイスホッケー部。

吹奏楽局が定期演奏会を開催

2022年2月26日(土)・27日(日)、吹奏楽局が1年の集大成である「第32回定期演奏会」を苫小牧市民会館で開催しました。演奏会は3部で構成し、第1部は「吹奏楽コンクール全道大会」で披露した曲目で音色を響かせました。第2部は定番の野球応援メドレーをはじめとした「駒苦吹奏楽局」ならではのラインナップを繰り広げ、第3部では「マーチングバンド全国大会」で披露したショーを再現。約2時間30分にわたるパフォーマンスで観客を魅了しました。2年ぶりに一般客を迎えて開催した今回の演奏会では、新型コロナウイルス感染症対策を講じ入場者は定員の半分とし、2日間で約1100人が来場しました。



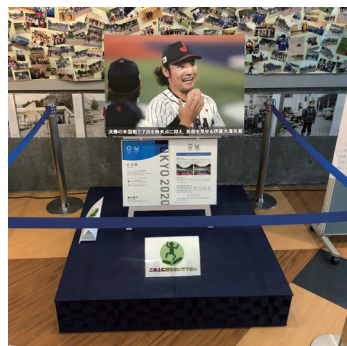
第1部の様子。
2021年度の吹奏楽コンクール全道大会A編成では吹奏楽局として過去最高得点を獲得した。



「駒苦吹奏楽局」の代名詞・第2部エンターテインメントステージ。一度目の当たりにすると、とりこになるお客さんが非常に多い。

卒業生が東京2020大会と北京2022大会で大活躍

東京2020大会では、野球日本代表(侍ジャパン)として田中将大選手(東北楽天ゴールデンイーグルス)と伊藤大海選手(北海道日本ハムファイターズ)が主軸として活躍。野球競技37年ぶりの金メダル獲得に大きく貢献しました。北京2022大会では、藤本もえこ選手・川島有紀子選手・山下光選手が女子アイスホッケー日本代表(スマイルジャパン)として出場し、初の準々決勝進出に貢献。また、押切美沙紀選手はスピードスケート競技に出場し、銀メダルを獲得した女子団体パシュートの4番目の選手として貢献したほか、女子5000mで8位入賞を果たしました。卒業生の大活躍は、在校生にとって大きな刺激となりました。



伊藤大海さんから寄贈いただいた東京2020大会の表彰台。校内に展示されている。



山下光さんは大会後に本校を訪れ、アイスホッケーに取り組む生徒と懇談。生徒は、オリンピックのアドバイスを耳を傾けた。



駒澤大学附属苫小牧高等学校

1964年設立
生徒数/835人
所在地/〒053-8541 北海道苫小牧市美園町1-9-3
TEL/(0144)32-6291
FAX/(0144)32-6521
公式HP/https://www.komazawa-uth.ed.jp/



駒澤大学高等学校 NEWS

「陸上競技大会」と「駒大高祭」を2年ぶりに開催

2020年度は実施を見送った「陸上競技大会」と「駒大高祭」(文化祭)を2年ぶりに開催しました。2021年11月19日(金)の「陸上競技大会」はクラス対抗競技、11月25日(木)の「駒大高祭」は校内のみの公開で、クラスや部活動の発表、アトラクションで盛り上がりました。久しぶりに躍動する生徒たちの姿が見られました。



陸上競技大会のハイライトとなるクラス対抗リレーの様子。



3年生はクラスでおそろいのハチマキをして、クラスメイトに熱い声援を送る。



駒大高祭閉会式では、サプライズで3年生の担任の教員もステージに登場した。



クラスごとの展示は、廊下の装飾も見ごたえあり。優秀作には賞が贈られる。

1年生が「林間学校代替遠足」を実施

この行事は、緊急事態宣言を受け中止となった1年生の宿泊行事「林間学校」の代替行事として実施しました。学年を2つに分け、2021年7月19日(月)、20日(火)に群馬県のみなみ町に遠足に行き、自然の中でのウォークラリーでクラスメイトや町民の皆さまと交流しました。1年生にとって入学後初めての校外行事を無事終えることができました。



クラスメイトとゆったりした時を過ごす。



ウォークラリーでは、班で協力して問題を解きながら森を探索する。



澄んだ川の前でポーズ。



何かを発見! みんなで観察してみよう。

2年生の山崎佐和子さんが、環境省「グッドライフアワード」にて「環境大臣賞」を受賞

2年生の山崎佐和子さんの活動「Fairy forest～もったいないに架け橋を～」が、環境省が主催する「第9回グッドライフアワード」にて「環境大臣賞」を受賞しました。山崎さんは食品ロスに関心を持ったことがきっかけで、産業廃棄物として大量に捨てられるおからを使ったグラノーラを開発・販売し、収益を「子ども食堂」に寄付するというプロジェクトを立ち上げました。山崎さんは「今後も地球に優しい空間をたくさんつくりたいです」と目を輝かせており、さらなる活躍が期待されます。



「グッドライフアワード」表彰式の様子。



安心・安全の素材にこだわった手作りグラノーラを牧場のマーケットで販売。



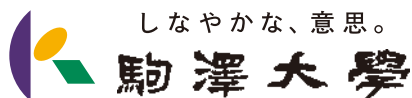
駒澤大学高等学校

1948年設立
生徒数/1604人
所在地/〒158-8577 東京都世田谷区上用賀1-17-12
TEL/(03)3700-6131(代表)
FAX/(03)3707-5689
公式HP/http://www.komazawa.net/



THE HISTORY OF
KOMAZAWA UNIVERSITY

- 1592 文禄元年 ● 江戸駿河台吉祥寺境内に「学林」設立
駒澤大学の前身である「学林」は、曹洞宗が禅の実践と
仏教の研究、そして漢学の振興を目的として設立
- 1657 明暦3年 ● 吉祥寺駒込に移転、中国の名僧・陳道栄が「旃檀林」と命名
- 1882 明治15年 ● 麻布区北日ヶ窪に校舎を新築して移転、
10月15日に校名を「曹洞宗大学林専門本校」とする
- 1905 明治38年 ● 校名を「曹洞宗大学」と改称
- 1913 大正2年 ● 大学を現在の駒沢（旧東京府荏原郡駒澤村）の地に移転
- 1925 大正14年 ● 大学令による大学として認可、「駒澤大学」と改称
- 1949 昭和24年 ● 学制改革により新制大学に移行、
仏教学部、文学部、商経学部の3学部で再スタート
- 1951 昭和26年 ● 学校法人令による学校法人駒澤大学に組織変更
- 1964 昭和39年 ● 法学部を開設
- 1966 昭和41年 ● 商経学部を経済学部に変更
- 1969 昭和44年 ● 経営学部を開設
- 1982 昭和57年 ● 開校100周年
- 1992 平成4年 ● 「学林」設立以来400年を迎える
- 2003 平成15年 ● 医療健康科学部を開設
- 2004 平成16年 ● 大学院法曹養成研究科（法科大学院）を開設
- 2006 平成18年 ● グローバル・メディア・スタディーズ学部を開設
- 2012 平成24年 ● 開校130周年
- 2013 平成25年 ● 駒沢移転100周年
- 2018 平成30年 ● 開校130周年記念棟「種月館」供用開始
- 2020 令和2年 ● 大学院仏教学研究科を開設
- 2022 令和4年 ● 開校140周年



仏教学部／文学部／経済学部／法学部／経営学部／医療健康科学部／
グローバル・メディア・スタディーズ学部／大学院／法科大学院

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1
TEL.(03)3418-9828 FAX.(03)3418-9017

<https://www.komazawa-u.ac.jp/>

K O M A Z A W A
U N I V E R S I T Y

Link

Link(リンク)には「人と人との繋がり」「伝統を繋げる」
「地域と繋がる」という意味が込められています。